

パソコン講座通じ障がい者の就労を支援 道内屈指の事業型NPO、次の10年へ

◇ 事務所スペースを会場に日々パソコン講習

六〇坪ほどのスペースはいくつにも仕切られ、事務局スタッフのデスクを囲むように、三つの講習会場と二つの就労スペースがある。朝一〇時前後からそれぞれの目的を持った人が続々と集まり始め、部屋に入り、仕事をしたりパソコンを習ったりする。使われているパソコンの台数は五〇台を超えているだろうか。設立から一〇年を経た

北海道の元気! NPO訪問

22 NPO法人 札幌チャレンジド

文・加藤知美

「NPO法人札幌チャレンジド」の事務所風景である。

自立をめざすチャレンジド（障がいをもつ人）のために、パソコンの技術習得によって社会参加と就労を支援する活動は、時代の要請に応じて規模が大きくなった。設立当初の二〇〇〇年には、自前のパソコンも事務所もない中で、メンバーの熱意をエネルギー源に、ともかく障がいをもつ人にパソコンのスキルを伝えた。大学のパソコン教室を休日に借りてボランティアが教える講習会を開いたり、一台の携帯電話だけが活動の対外的窓口だった。翌年、国の交付金を財源に自治体を実施するIT講習会が展開され、札幌市での障がい者対象の講座を受託し、人材が集積してノウハウの蓄積につながった。さらに、助成金を得ながらノートパソコンを手に入れ、二年後に事務所を開設し、スタッフ一名が常駐するようになった。その後も年々活動は活発になり、間もなく常設の講習会場を開設した。

講習は一回あたり二時間半で、ワードやエクセルを中心に入門から上級者向けまで、幅広いカリキュラムが用意されている。どのクラスも八名までの少人数で実施され、それぞれの障がいに応じた配慮がある。たとえば、視覚障がい者のための講習は、音声読上げソフトの入ったパソコンを使用し、専用の講習会場で行われる。視覚と聴覚の重複障がいへの対応もしている。また、講習会場

へ通うのが困難な障がい者の個人宅へ訪問講習を行っている。札幌チャレンジドの講習会でパソコンを習得した障がい者の中には、現在パソコン講師として教える側にまわっている人もいる。ほぼ毎日講習が行われ、年間延べ約三千人が受講している。

◇ 就労支援の積極的展開、在宅業務の請負や訪問講習も

設立当初から障がい者がパソコンの技術を身につけることが就労や社会参加に結びつくことを目指していたが、パソコンを学びたくてもその機会がなかった障がい者の受講が相次ぎ、講習会の活動が先行した。

転機となったのは二〇〇六年の障害者自立支援法だ。法施行の年、制度を利用して就労継続支援（A型）サービスの事業を開始した。徐々に拡大し、現在の定員は二八名だ。

また、在宅で仕事をする仕組みもある。仕事の内容は、ホームページの制作、画像処理、字幕製作、データ入力などパソコンを使った業務全般にわたっているが、基本的には企業と札幌チャレンジドが業務の請負契約を行い、障がい者が実際の



新聞にとりあげられることも多く活動のPR手段ともなっている



パソコン講習会で技術を習得し、最近では検定にも挑戦している

作業に従事する。初めての大きかりな受注は、写真などの素材を提供する株式会社データクラフト（本社・札幌）からだった。写真の画像データに検索しやすいようにキーワードを付与する仕事だ。その後、動画サイト「ニコニコ動画」を監視し、不適切なコメントを削除する仕事も始まった。設立一年目に約一〇〇万円だった事業規模は現在七〇〇万円を超えている。このうち障がい者の就労支援に関連して企業から受託している事業は四〇〇万円近くにはのぼる。ホームページでも公開している収支計算書により活動の推移を見ると、施設や機材を借りてのパソコン講習会から始まり、IT講習会など行政の委託事業の受託、助成金を獲得しての事業をバランスよく発展させ、近年は就労支援事業が軌道にのってきていることがわかる。

企業側の取り組みも近年積極的になっている。札幌チャレンジドの活動をホームページで見ることができ、障がい者就労支援を考えた、発注を検討し連絡してくるケースが多い。企業のコストダウンと障がい者の適正な賃金を両立させるための考え

方をホームページで明示したうえで、企業側から業務内容や見積額を提示する流れをつくっている。また、障がい者の採用を希望する企業からの問い合わせにも対応し、就職希望者の中から条件に合う障がい者を紹介することで、就職のサポートも行う。札幌に集積しつつあるコールセンターへの就職などの実績がある。また、企業への就職を目指した講座やコールセンター見学研修などを実施している。

一方、札幌チャレンジドが大事にしている活動のひとつに重度障がい者の意志伝達支援がある。ALS（筋萎縮性側索硬化症）などの病気により手足を思うように動かさず、気管切開で言葉を発することが困難な重度の障がい者のために、意志伝達支援装置という機械の使い方を自宅や病院へ訪問講習して教えている。声が出ないために自分の意思を伝えられず、もどかしい思いをしていた人が、装置を使うことによりコミュニケーションができるようになり喜んでもらえることに、スタッフは大いに励まされる。

◇ 活動を支えるボランティア、求めらるる体制整備

札幌チャレンジドの活動は、多くのボランティアに支えられている。特にパソコン講習の補助役は、きめ細かな講習の実現に欠かせない。また、訪問講習の講師は有償ボランティアの仕組みでおこなっている。会報発送、事務所や講習会場の掃除などもボランティアの手でおこなわれ、冬場は氷割りボランティアも募集している。毎日多くの障がい者が通う事務所近くの交差点付近では、路上の雪が凍って歩道と車道に段差ができ、車椅子などでの通行に苦労する。そのため、冬期間二週

に一度程度、つるはしで氷割りをするのである。

こうした様々な活動をしっかりと支えるのは、六名の事務局と九名の運営委員だ。ボランティアとして活動していた中から事務局職員になるケースが多いため、障がい者に優しく親身になって接するので、事務所は居心地がよい。また、活動の方向性やトラブルの対処などは運営委員が毎度徹底的に議論を尽くす。月一回の会議以外にもメールでの意見交換を盛んに行っている。

昨年一〇周年を迎えたが、組織のあり方も当初とは変わりつつある。アイデアを出し合っワイワイ議論する楽しさはいかにもNPOらしくあったのだが、事業規模が大きくなり、社会における存在感が増すにつれ、体制を整える必要がでてきたという。今春には公募により若手職員を採用し、より着実な事業運営を目指す。



就労スペースでは真剣に仕事に取り組む後姿が印象的だ

◆ NPO法人 札幌チャレンジド

所在地 札幌市中央区北5条西6丁目
札幌ビル8階

TEL 011-261-0074
WEB <http://s:challenged.jp/>